

## 心

陳 碧然  
CHEN BIRAN

2018年、熊本で一年間を生活した。今年は、第二回熊本で長く生活する。熊本の生活にも慣れてきた。今日は私が日本に対する一つ社会問題について、話したいと思う。

現代の社会は、物質的なことが優先され、人間の心は二の次に考えられている。例えば昨年、日本国民の多くに不安を抱かせた不二家の『期限切れ原材料使用問題』。工場のみが得ることができ、また、感じることのできる利益・効率の良さ・・・物質的なことばかりに重きを置き、国民の安全や安堵を感じられる気持ちを考えなかった結果が、全製品販売廃止—山崎製パン(株)の子会社となった。不二家に限らず、心というものを軽視した今日の社会は問題だ。ではその原因は何だろうか。

第一に考えられる原因は、日本が戦後のモノ不足の時代から急速に立ち直ろうとしたという歴史的な背景にある。日本がポツダム宣言で降伏を認めてからというもの、瞬く間に復興作業が始まり、また経済・技術と共に急上昇を成し遂げた。しかし、人間の心がおざなりにされ始めたのもこの頃だと言っても過言ではない。モノ不足の頃には当たり前のように備わっていた“謙虚さ”が、今やめったに見られない。その反面、欲を剥きだしている顔は今までになく見られるようになったが・・・。

第二の原因としては、資本主義の世界では金銭的に換算される価値が優先されるという社会的な背景が挙げられる。例えば、国連が実施した世界の青少年意識調査によると、戦前・戦後と出され

た『日本の青少年の将来の夢』のデータは、お互いかけ離れたものとなったようだ。昔の青少年が“人の手助けをしたい”と答えたのとは反対に、現代の青少年は“お金持ちになりたい”などという、自分だけが満足する将来を過ごすことを重要視する答えが多かったのだ。この背景には、テレビで“金銭第一”といったような発言を繰り返す大人たちの影響が非常に大きいと考えられるのではないだろうか。

確かに、物質的な豊かさは人間生活の基礎として重要である。しかし、物質的な豊かさによって返ってくるものは、あくまでも物質的なもののみと限定され、人の心に響くものがないということは問題だ。第一に優先すべきものは物質的なものではなく、まず人間の心である。個々の心によって得られるものは、物質的なものとは比べものにならない程、大きい。